

MATERIAL REVOLUTION



JSW 日本製鋼所

「Material Revolution[®]」の力で世界を

日本製鋼所は、その創業のときから、時代の求める新たな素材の開発とその社会への提供、即ち『Material Revolution (材料革命)』を通じ、社会課題の解決に貢献し続けています。

溶かす技術

混ぜる技術

固める技術



機械要素技術

精密制御技術



ものづくり(製造)技術



Material Revolution[®]

時代の求める素材を開発し、それを社会実装する

*Material Revolutionは当社の登録商標(商標登録第6650455号)です。

持続可能で豊かにする。

1907(明治40)年、日本製鋼所は「鋼」作りからスタートしました。当時の社会が求めていたもの、それは優良な「鋼」でした。日本が産業技術の向上を図り、欧米に追い付こうと国を挙げて努力していた時代に求められていた普遍的な価値が、「鋼」であったのです。当時変わらないと思われていたその価値は、明治、大正、昭和、平成、令和と移り、創業から120年を迎えようとしているこの時代に大きく変わってきています。

「自然資本」の価値が重視され、気候変動リスクを回避するために、より軽量で環境負荷が低い素材が求められています。当社は、戦後いち早く軽量素材である「プラスチック」に着目し、プラスチック用の各種の製造装置を世に出しました。今、世界はカーボンニュートラルを目指し、さらに軽量、高機能で省エネ性に優れた新たな素材を必要としています。

一方で、廃棄プラスチックによる海洋汚染は大きな社会問題であり、その解決に向けて、廃棄プラスチックを活用した循環型社会の実現も世界共通の課題です。

当社は、新素材とその社会実装のための産業機械を開発し、『Material Revolution(材料革命)』を通じて社会課題を解決する「価値」を提供し続け、持続可能な豊かな社会の実現に貢献してまいります。

今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社日本製鋼所
代表取締役社長

松尾敏夫

独自の価値づくり・ものづくりを通して産 便利で快適な暮らしを根底で支えています

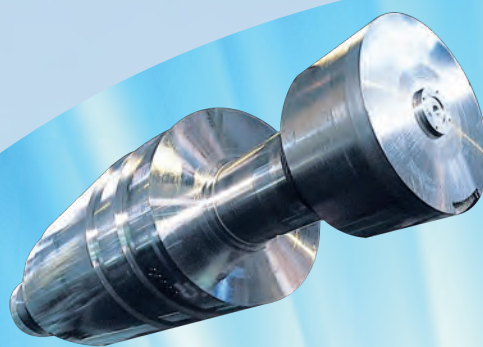
■主要製品と事業領域



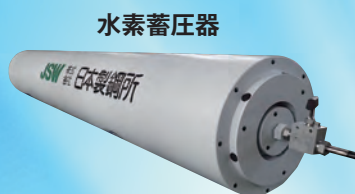
Energy

エネルギー

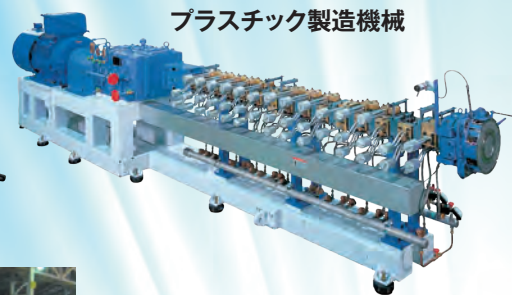
- 発電プラント機器
- EV用バッテリー部品
- ソーラーパネル素材
- 水素貯蔵機器
- 天然ガス生産・輸送機器



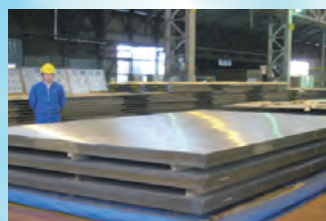
大型鍛鋼品



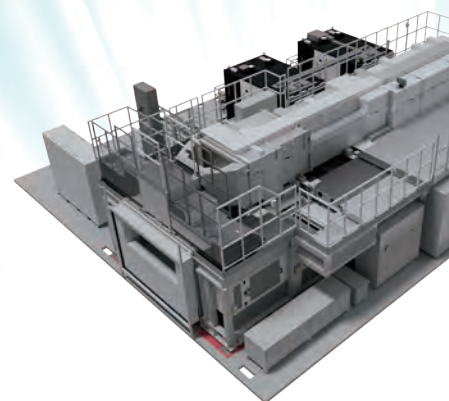
水素蓄圧器



プラスチック製造機械



クラッド鋼板



エキシマレーザーアニール装置

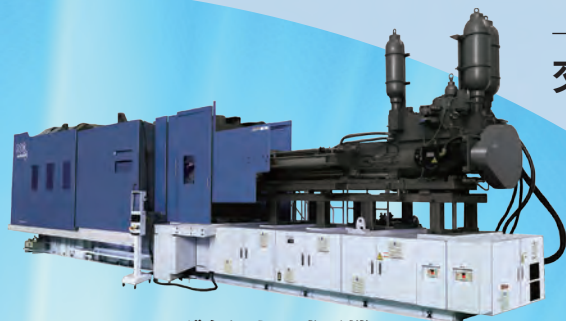
業の発展に貢献し、 す。

私たちJSWは、常に時代のニーズに応え、独自の技術を駆使して高機能素材や各種製造装置などを世に送り出してきました。これからも、環境対応など新たな付加価値を創造しながら、さらなる未来へと続く社会と産業の発展に貢献していきます。

Transportation

交通・輸送

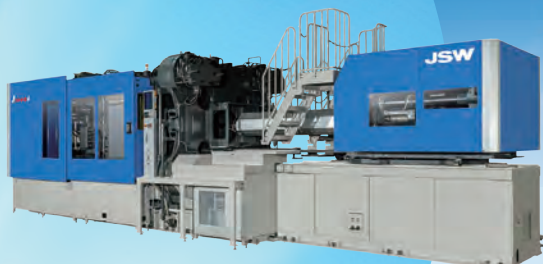
- 自動車部品/素材
- 鉄道車両部品/素材
- 航空機部材



マグネシウム成形機



フィルム・シート製造装置



プラスチック成形機



ホットプレス機



IT/Telecommunications

IT・通信

- IT製品/製造装置
- 半導体素材/半導体製造装置



BUSINESS DOMAIN

01

樹脂機械事業

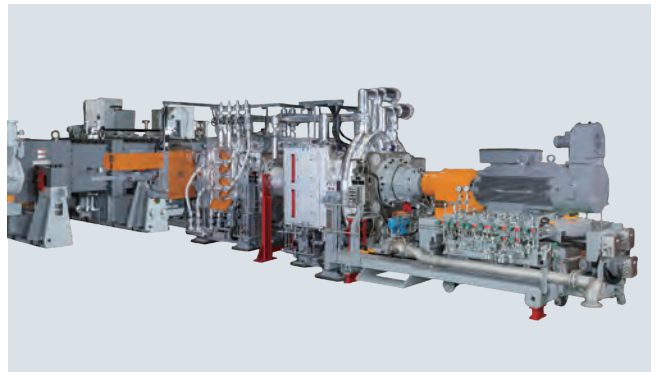
Plastic Machinery Business

世界で唯一の総合樹脂機械メーカーとして、豊富な経験と実績をもとに石油化学産業の上流から下流まで幅広い領域で、社会の発展に貢献しています。

■ プラスチックを活用した便利で快適な生活を見えないところで支えています

蓄積してきた独自の技術とノウハウで 産業界のさまざまなニーズに対応します

樹脂機械事業では、樹脂製造・加工機械（造粒機、二軸混練押出機、フィルム・シート製造装置など）の製造・販売・保守サービスを行っています。当社の機械・装置で生産された製品は、5G対応のスマートフォン、パソコン、タブレット端末、キーボードなどのIT製品、コンデンサー、半導体製品などの電子材料、家電製品、リチウムイオン電池、自動車部品、食品包装フィルム・容器、カテーテルなどの医療器具など、さまざまな製品に使われています。



大型造粒機

食品包装から液晶パネル部材まで

当社のフィルム・シート製造装置における歴史は、1958年の1号機に始まり、これまで半世紀以上にわたり、食品包装など一般用途から、リチウムイオン電池や液晶パネル部材など工業・光学向けの高機能用途に至るまでさまざまな領域で多くの実績を重ねてきました。当社の製造する装置から生み出されるプラスチック製品は、日々の生活に密着し、暮らしを快適にするもの、エネルギー分野で環境問題に寄与するもの、医療で人々の生活を助けるものなど多岐にわたります。



二軸延伸フィルム・シート製造装置

カーボンニュートラル社会の実現に向けて

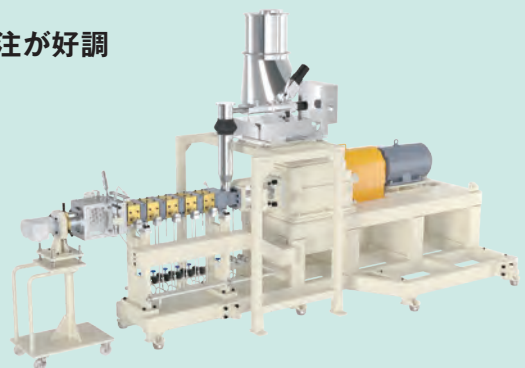
2050年のカーボンニュートラル社会の実現に向けて、軽量化による自動車の低燃費化、EV化による化石燃料の電池置き換え（脱炭素化）、各種プラスチックリサイクル関連技術のニーズが高まっており、プラスチック加工機械市場はますます拡大することが見込まれます。業界のリーダーとして、社会により貢献できるプラスチック加工機械の技術開発とともに、プラスチックのリサイクル技術開発にも積極的に取り組み、地球環境を守りながら、プラスチックと共生できる社会を目指します。



フィルム・シート製造装置

TOPICS 食品用二軸混練押出機（エクストルーダー）の受注が好調

当社は1950年に樹脂向け単軸押出機の初の国産化に成功して以来、樹脂用二軸混練押出機の分野で業界のトップを走り続けてきました。食品分野においては樹脂混練で培った技術をもとに食品用二軸混練押出機（エクストルーダー）を1988年に上市し、多くのお客様にご愛用いただいております。当社食品用二軸混練押出機（エクストルーダー）『TEX-F』は小型機から大型機まで幅広いラインアップを揃え、畜肉加工、製粉・澱粉・大豆加工、ペットフード、製菓（パン、クッキー、チョコレート）など幅広い分野の食品加工において高い品質と生産安定性を実現し、更に食品残渣のアップサイクルにも貢献しています。



BUSINESS DOMAIN

02

成形機事業

Molding Machine Business



私たちの暮らしに欠かせないプラスチック製品を製造する「プラスチック射出成形機」と「中空成形機」、リサイクル性にも優れたマグネシウム合金を成形する「マグネシウム射出成形機」を世界中に提供しています。

■ カーボンニュートラル社会に向けて高まる需要に 製品力・提案力・サービス力でお応えします

家電、自動車、日用品・容器分野を軸に 幅広いプラスチック射出成形機をラインアップ

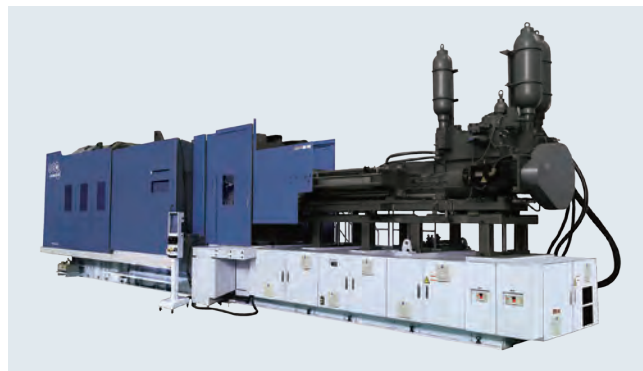
小型機から超大型機、多色・多材質成形や超精密成形用の特殊仕様機など、幅広くラインアップし、世界中で活躍しています。また、成形機の電動サーボモーター駆動や電源回生などの省エネ技術、発泡成形などの材料削減技術、IoTを活用した生産の効率化などでカーボンニュートラルに貢献します。



プラスチック射出成形機

持続可能な社会に向け 期待が高まるマグネシウム射出成形機にも注力

当社の「マグネシウム射出成形機」は、THIXOMOLDING[®]技術を採用しており、従来の工法よりもクリーン・省エネ・高精度での成形が可能です。マグネシウムの持つ、軽くて強いといった優れた特性を活かし、自動車部品への適用拡大などでカーボンニュートラルに向けた社会のニーズに応えていきます。



マグネシウム射出成形機

JSWグループは、小型容器から大型多層容器まで 中空成形に関するあらゆるニーズに対応

自動車の燃料タンクや工業用の容器などに使われる中・大型機から、化粧品・日用品向けの小型機まで、中空成形に関するあらゆるニーズに対応しています。



中空成形機

TOPICS | スマートファクトリー化を実現し生産性向上に大きく貢献

当社のIoTソリューション「J-WiSe[®]」は、「生産管理」「運転支援」「サービス・保全」「生産自動化システム」の4つのフィールドでシステム・サービスを提供し、お客様の工場の生産性向上に貢献します。

今後は成形機製品にとどまらず、二軸混練押出機など当社の産業機械製品全般に適用を拡大中です。



J-WiSe[®] : JSW Worldwide IoT Solutions of Enhancement

BUSINESS DOMAIN

03

産業機械事業

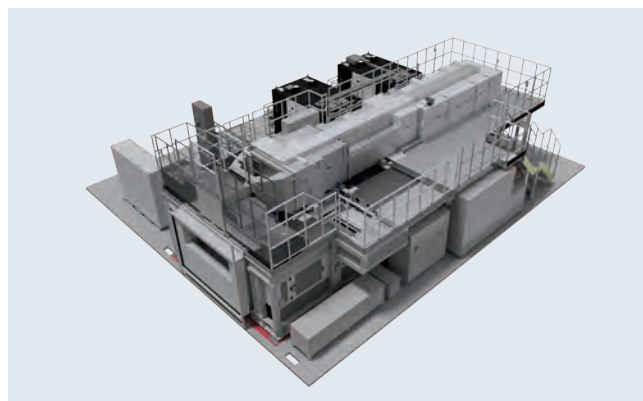
Industrial Machinery Business

半導体やディスプレイ、また電子部品の生産に使用される電子デバイス関連装置、経済インフラを支える鉄道関連製品など、産業機械製品の製造・販売・アフターサービスを行っています。

■ 5Gや自動運転技術など、社会の進歩に欠かせない電子デバイスの進化を最先端の製造装置で支えています

最先端ディスプレイの高品質化と生産効率向上を支えます

スマートフォンやタブレット、パソコンなどのディスプレイは年々進化を続け、画像はより鮮やかな色彩で、また映像はより滑らかな動きで再現されるようになってきました。これを支えているのが、フラットパネルディスプレイの高精細化に欠かせないレーザアニール装置です。また、スマートフォン、ウェアラブル端末への適用が進むフレキシブルディスプレイの生産には、当社のレーザ剥離装置、フィルムカッティング装置が活かされています。



エキシマレーザアニール装置

自動車の進化や情報通信技術の進歩を製造面からサポート

アクティブセーフティやコネクテッドカーなどのニーズの高まりを受け、自動車に搭載される電子機器が増えてきています。そのほか、IT機器や産業ロボットなどにも高度の電子機器が必要とされており、これらに使われているプリント配線板の製造に、当社のホットプレスと真空ラミネータが活躍しています。



ホットプレス

情報通信インフラを支える光通信などの光源や自動車の自動運転用の障害物センシング、3Dプリンターなどレーザの用途が広がっています。高出力、高効率な半導体レーザの製造には高品質の成膜技術が求められ、当社のECRプラズマ成膜装置が用いられています。この成膜技術は、スマートフォンやIoTデバイスの通信に用いられる高周波フィルターの製造にも貢献しています。



ECRプラズマ成膜装置

TOPICS 真空・加圧式電動3ステージラミネータ

当社の真空ラミネータは、プリント配線板や半導体パッケージ基板の製造において、電子回路基板とドライフィルムを積層する工程で使用されます。

IoT、AI、自動運転技術などの最新技術には、高密度配線による高度な電子回路基板などのハードウェアの開発製造が欠かせません。そのニーズに応えるための新たな機種として、真空・加圧式電動3ステージラミネータ「MVLP-3ST- α X」を2023年度に上市しました。また、当社の名機製作所（愛知県大府市）構内には、新たにテクニカルセンターを開設し、新たな技術をお客様と共に考え、開発を支援しております。



新型真空ラミネータ
(MVLP-3ST- α X) 外観

BUSINESS DOMAIN

04

素形材 エンジニアリング事業

Materials & Engineering Products Business

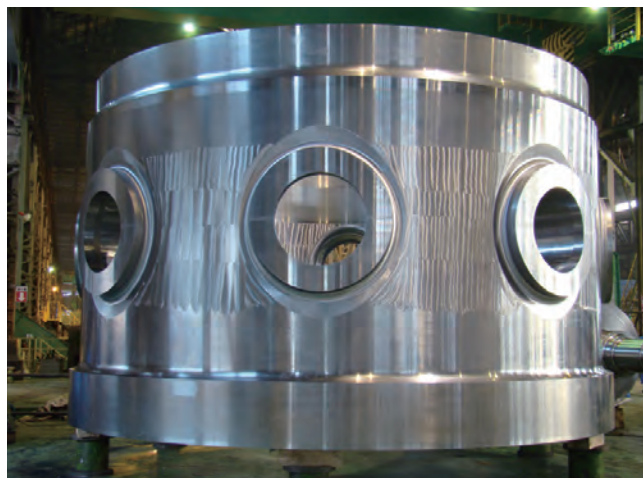
100有余年にわたり培ってきた素形材の製造技術を活かし、ますます高度化・多様化するニーズに対応するため、鋼に非鉄金属や複合材料を加えたさまざまな部材を提供します。また、幅広いソリューション技術により、設計・構造物製造・施工・検査/調査・補修など、顧客ニーズに総合力で応えます。

■ 幅広いニーズに応える部材(素形材)およびソリューション(エンジニアリング)を提供しています

素形材部門

(鍛鋼品・クラッド鋼板)

JSW創業の地、室蘭を代表する大型鍛鋼品は、発電所の重要部材として広く国内外で使用されています。これらの製品に求められるのは、絶対的な信頼性と安全性。当社は世界最大の670トン鋼塊を造る技術力と、創業以来受け継ぎ進化させてきた材料開発技術を活かし、日々高度化し続けるエネルギー産業のニーズに応えています。その他の中・小型鍛鋼品や、異種材を接合した高機能材料であるクラッド鋼板も、エネルギー、自動車、産業機械、情報通信、電気・電子、食品など、多岐にわたる分野で利用され、人々の生活に欠かせない社会インフラの持続的な発展を支えています。

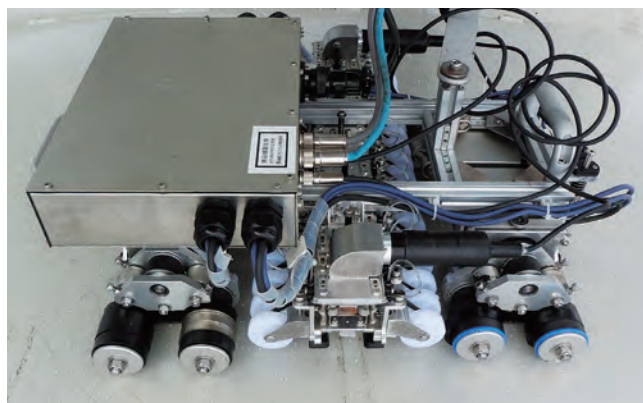


原子炉圧力容器部材

エンジニアリング部門

(設計・製作・施工・設置から保守点検・解析評価・補修)

エンジニアリングサービス部門では、社会インフラの老朽化ニーズに対応し、石油精製反応塔や産業用溶接構造物の設計・製造・施工・検査を通じて培ってきた技術を基盤に、鋼溶接構造物の製造、お客様の設備更新を支援する施工管理、各種プラントの検査や材料劣化診断を行っています。加えて、自社独自技術を活用した検査提案および付帯・補修工事まで含めた総合的なエンジニアリングサービスを提供し、社会の安全と発展に貢献しています。さらに、持続可能な社会の実現に向けて、水素活用技術の研究開発や新技術の創出にも積極的に取り組んでいます。



自走超音波検査機器

持続可能な社会実現に向けた貢献

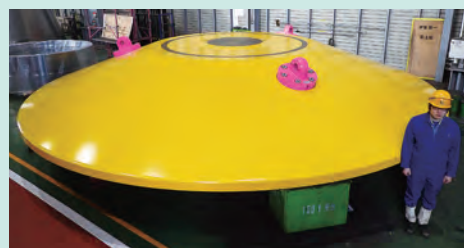
社会インフラや各種のプラントなど、厳しい使用環境向けの機器を製造することで長年培ってきた、素形材とエンジニアリングの固有技術を、カーボンニュートラルなど、社会の新しいニーズに活かしています。例えば、洋上風力発電機の設置に使われる杭打ち装置などの再生エネルギー分野、低熱膨張合金などの電気・電子分野、水素蓄圧器や水素吸蔵合金(MH)タンクなどの水素インフラ分野において、当社独自の製品・サービスを提供しています。今後も、当社が持つリソースを活用して新しい付加価値を生み出し、常に新しい製品・サービスで社会に貢献し続けていきます。



大型定置MHタンクと小型MHタンク

TOPICS 洋上風車杭打ち機用ハンマー部材の大型化対応

脱炭素化・脱化石燃料の世界的な潮流を受け、洋上風力発電は再生可能エネルギーの主力電源として整備が進んでいます。着床式洋上風力発電の普及と発電容量の拡大に伴い、モノパイル(基礎杭)を打ち込むハンマーの大型化が求められている中、当社は装置メーカーと共同開発を行い、世界でも例を見ない大型鍛鋼部材の供給を実現しています。



防衛関係事業 Ordnance Business

1907年(明治40年)に兵器の国産化を目的として創業した当社のルーツであり、我が国における火砲システムのリーディングカンパニーとして各種の防衛製品を製造しています。



創業から続く、安心・安全を守るものづくり

創業時から培ってきた素材・機械製造技術を基に、先端技術を開発・適用し、防衛省・海上保安庁向けのさまざまな防衛機器の製造、整備を行っています。また、先進防衛システムに関する研究開発にも積極的に取り組み、今後も日本の平和と安全に寄与していきます。



装輪装甲車(人員輸送型)AMV



62口径5インチ砲



19式装輪自走155mmりゅう弾砲

出典:自衛艦隊ホームページ
<https://www.mod.go.jp/msdf/sf/news/08/0830-01.html>

新規事業 New Business

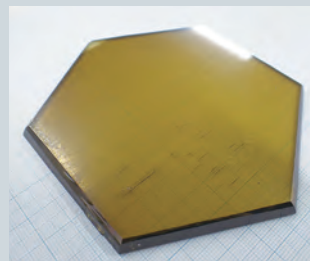
持続的な社会の実現のため、新事業に注力し、社会の発展に貢献していきます。



フォトニクス事業

次世代高速・大容量通信、省エネなどの実現に向けた単結晶材料の製造と事業化の取り組み

次世代インフラ社会に向けて、通信分野ではより高速かつ大容量、そして低消費電力を実現する新たな光・電力ネットワークの構築が進められています。こうした背景のもと、当社では、GaN(窒化ガリウム)、人工水晶、ニオブ酸リチウムといった先端結晶材料およびそれらを使用した高品位基板製造に注力し、次世代高速通信や光エレクトロニクス、次世代パワーデバイス、センシング用途など多様な分野への貢献を進めています。当社の強みは、大型鋳鍛鋼品で培った技術を応用した高温高压オートクレーブによる高品位結晶育成と、それに続く接合・成膜・改質といった高付加価値プロセスの一貫対応です。今後もこうした技術基盤を強化し、次世代社会の通信・エネルギーインフラを支える素材メーカーとして、社会課題の解決に貢献していきます。



窒化ガリウム (GaN) 結晶



ニオブ酸リチウム (LiNbO₃:LN) 結晶

金属材料事業

通信データトラフィックの加速度的増加に対応する高性能かつ高品質な金属製品を生産

IoT・5Gの進展や、AI関連需要の高まりを背景に、情報通信機器の高機能に貢献する銅合金をはじめとした高機能金属素材を提供しています。JX金属株式会社との合併である室蘭銅合金株式会社を設立し、最先端の技術を駆使して設計した、従来の設備を凌駕する新設備により順調に生産規模を拡大しています。今後も素材技術を通じて、スマート社会の実現に貢献していきます。

BUSINESS LINE 主要営業品目

産業機械事業

樹脂製造・加工機械

- 造粒機
- 二軸混練押出機
- フィルム・シート製造装置
- 紡糸用押出機

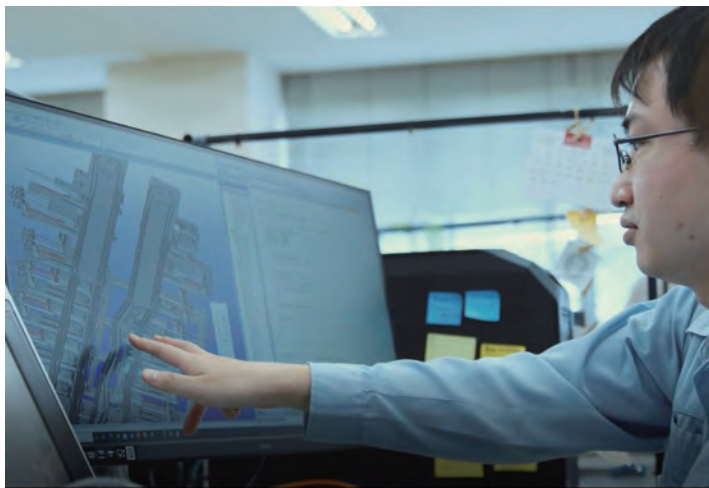
成形機

- プラスチック射出成形機
- マグネシウム射出成形機
- 中空成形機

防衛関連機器

その他産業機械

- エキシマレーザーアニール装置
- ラミネーター
- 成膜装置
- 鉄道製品
- 食品用押出機
- 発馬機



素形材・エンジニアリング事業

素形材

- 原子炉圧力容器・蒸気発生器部材
- 発電用ローターシャフト
- 製鉄用圧延ロール
- 圧延機・鍛造設備部材
- クラッド鋼板

エンジニアリング

- プラント・インフラ鋼構造物の設計、製造および工事
- 各種非破壊検査、分析検査サービス
- 水素蓄圧器、水素吸蔵合金タンク
- 複合材料



新規事業

- フォトニクス
- 金属材料

ものづくりの一貫体制と将来を見据える先見力とで 時代が求める素材を生み出し社会に拡げていく

日本製鋼所の創業の目的は、それまで輸入に頼っていた高度な兵器の国産化でした。そのために必要とされたのは、機械装置の設計・制御技術、機械に使用される素材の設計・開発技術、そしてそれらを実現する製造技術です。

創業から100有余年、社会は大きく変わり、求められる価値も移り変わってきました。私たちは、自社の持つ独創・固有技術を進化させると同時に、お客様と共に技術的イノベーションを実現することで、常に最新の技術を社会に実装し続けています。

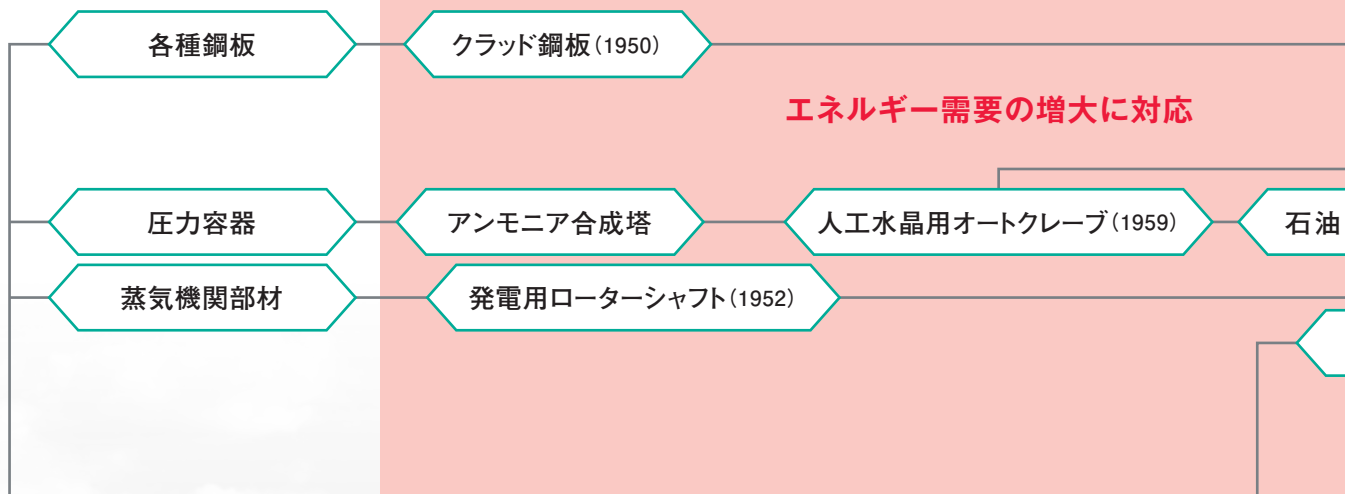
なかでも、溶かし、混ぜ、そして固めることで新たな素材を生み出す技術は、私たちの産業機械事業、素形材事業、そして新たな事業を生み出すコアとなっています。

例えば、日々の生活に欠かせない素材となっているプラスチック。そのさまざまな用途に応じた機能や形を与えるために、溶かし、混ぜ、固めるというプロセスが必要です。ここでも、日本製鋼所の独創・固有技術が活かされ、便利で豊かな社会の実現に貢献しています。



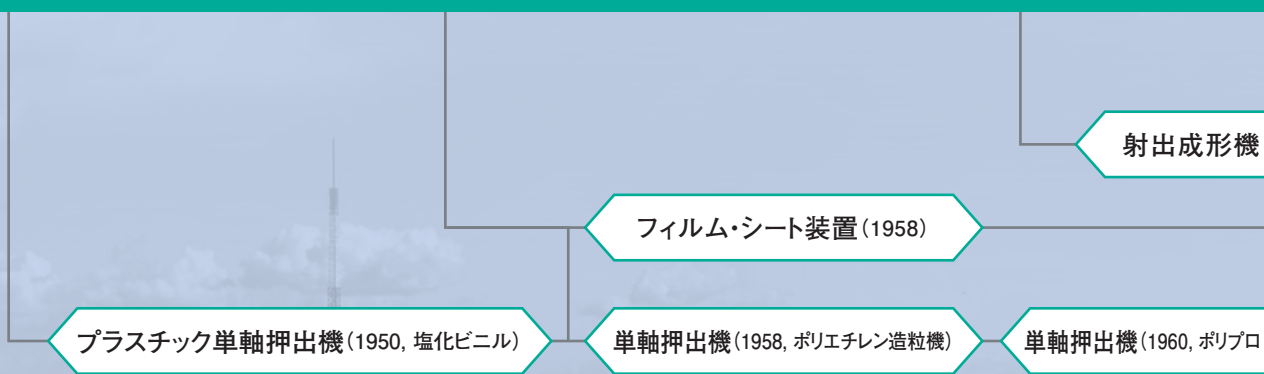
国産初の制式航空機エンジンを製造(陸軍、大正7年)

■日本製鋼所の技術と製品の系譜



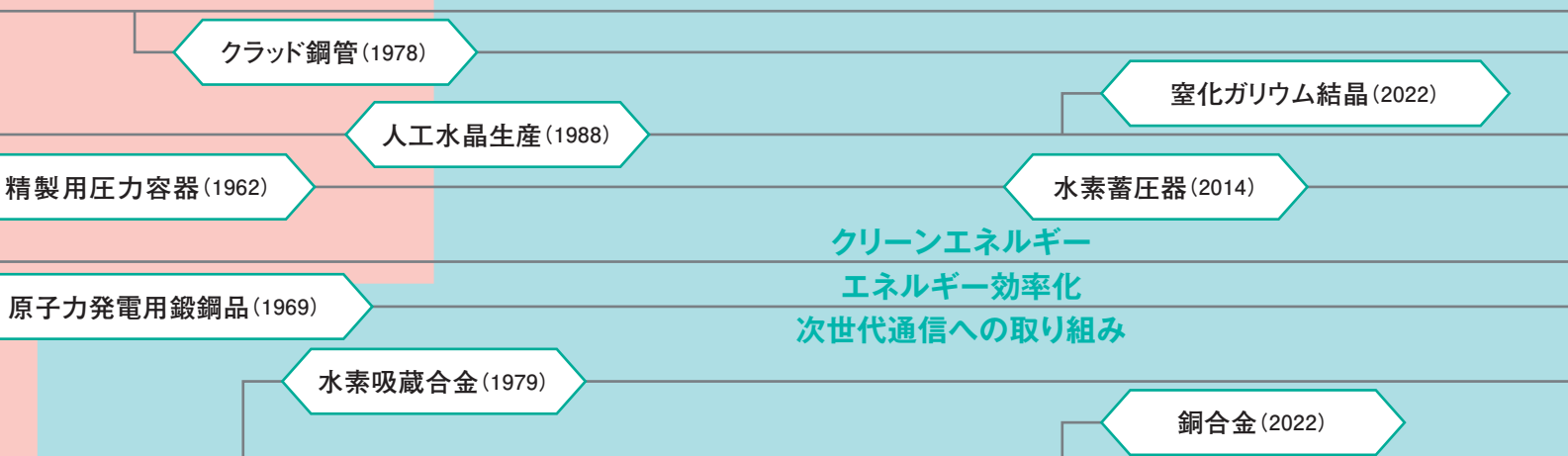
JSW 創業 (1907)

機械要素・精密制御技術、

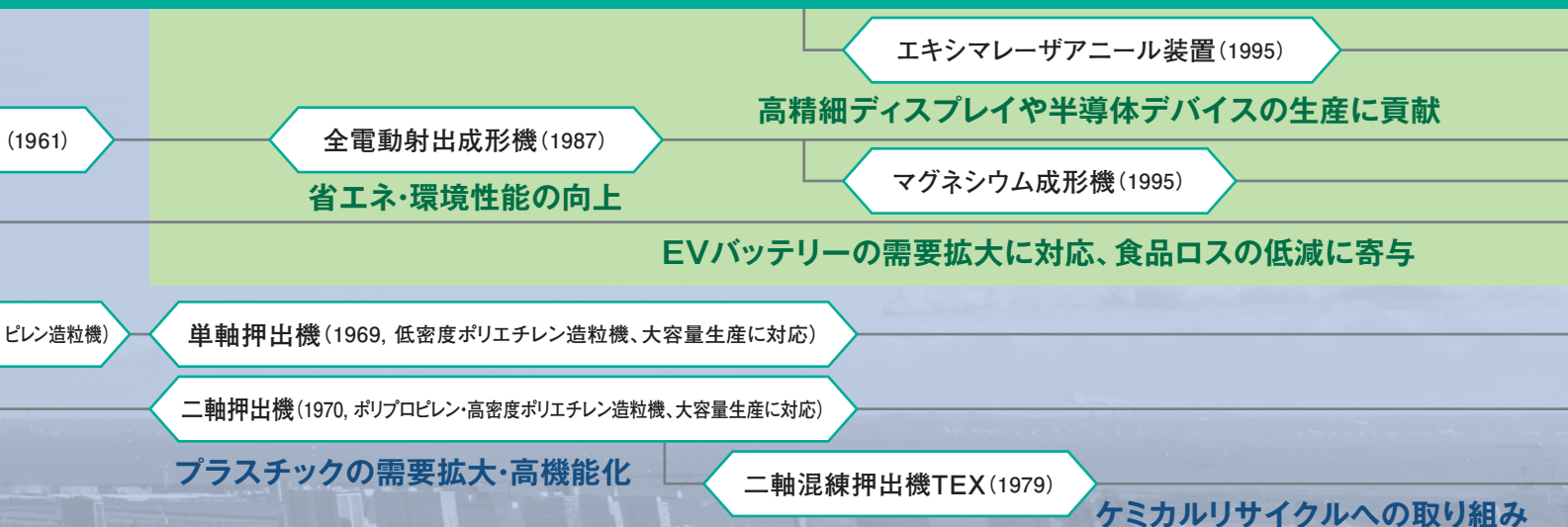


プラスチックの社会への普及期

自分で作るからわかる、つくりこむから進化する独創技術が、
社会への新しい技術の実装につながっています。



素材開発・製造 (溶かす・混ぜる・固める) 技術



人と社会と自然が共生する緑の地球を次の世代へ引き継ぐために

ENVIRONMENT プラスチック資源循環社会の実現

省エネ社会を支え、CO₂排出量削減に貢献するプラスチック

プラスチックは、その特長を利用すると社会・環境問題の解決に有用であることから、現代社会になくてはならない素材だといわれています。2040年には世界のプラスチックの使用量は現在の約2倍の8億t、2060年には12億tに増えるとの予測もあります。

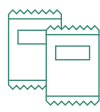
軽さ

プラスチックは他の素材に比べると軽い素材です。包装資材の軽量化や自動車の燃費向上に貢献し、物流におけるCO₂排出量の削減に寄与しています。



ガスバリア性

プラスチック製の食品包装は、食品を空気や水蒸気から遮断し、貯蔵寿命が延びることからフードロス低減につながります。



少ないエネルギーで形にできる

プラスチックは加熱すると柔らかくなります。この状態で金属製の型の中に流し込むと、最終的な形に成形することができ、加工エネルギーを削減できます。



断熱性

プラスチック製のサッシはアルミ製の2.6倍の断熱性能があります。建物の断熱性能が高まることで、季節を問わず快適に過ごすことができます。



再生可能エネルギー普及への貢献

太陽光発電パネルや風力発電の風車の羽根の効率的な生産にプラスチックは欠かせません。



絶縁性

EVの心臓部であるリチウムイオン電池にも電池の正極と負極を隔離する電気絶縁性があるプラスチックフィルムが使われています。



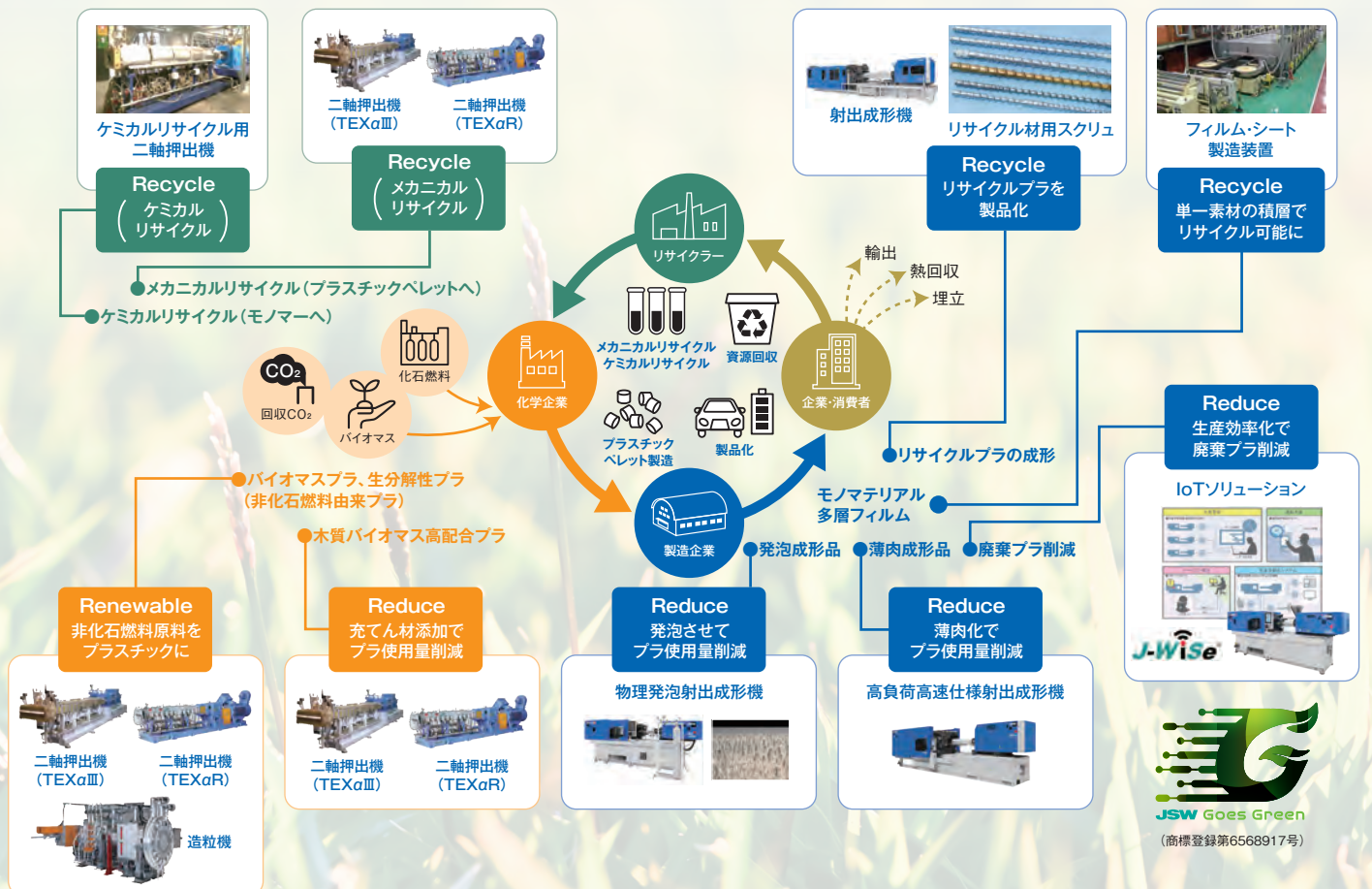
社会・環境問題としてのプラスチック

プラスチックの大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とするリニアエコノミー（線形経済）では、資源（化石燃料）の枯渇、プラスチックの製造・廃棄時のエネルギー消費、投棄され海洋に流出したプラスチックが海生動物を傷つけるなどさまざまな問題を引き起こしています。

その問題のソリューションが豊かな生活、環境負荷低減、経済成長の調和を保つサーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現です。循環が根づくことで、投棄されるプラスチックも大幅に減少すると期待されます。

プラスチック資源循環社会の実現に向けた当社の取り組み

当社グループは、マテリアリティの筆頭に「プラスチック資源循環社会の実現」を掲げています。プラスチック原材料を製造する造粒機や二軸混練押出機、原材料をフィルム、自動車部品、ボトルなどの製品にするフィルム・シート製造装置、射出成形機、および中空成形機、さらに、プラスチックをリサイクルするための二軸混練押出機など、プラスチック資源循環の中で、資源回収を除いたすべての段階で各種のプラスチック加工機械を提供できるのは、当社グループの強みであり、責務だと認識しています。



SOCIETY 事業活動に不可欠な「人」を尊重し、最大限に活かす

多様な人材が力を発揮するための 働きやすい環境整備

当社では、ハラスメント防止活動や安全衛生活動に注力し、社内外の相談窓口を設置するなどしています。ハラスメント対策委員会による解決プロセスの整備も行っています。また、ワーク・ライフ・バランスにつながる制度整備を進め、多様な人材が働きやすい環境を整え、等しく活躍の機会を得られるよう、従業員へのアンケートなどを実施しています。



事業活動のベースにあるのは 地域社会とのより良い関係

当社グループは、企業も社会の一員であり、地域をはじめとするさまざまなコミュニティとともに発展していく存在であると考えています。当社グループは、事業を通じて社会に貢献するとともに、より良い社会の実現、地域社会に根差した企業を目指して、社会的責任を重視した活動にも取り組んでいます。



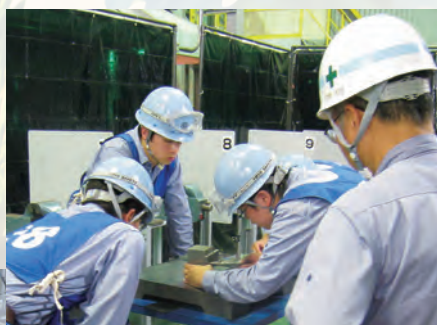
職業体験

あくなき品質へのこだわりで 期待を超える製品・サービスを提供

当社の強みである製造体制に必須な現場レベルでの技術・技能の維持向上を図るため、「技能道場」(広島製作所)、「はがね塾」(室蘭製作所)といった社内研修の場を設け、長年培ってきた各種のノウハウを、先輩から若手へと受け継いでいます。



ひろしま技能フェアへの協賛・出展



工場見学



ネーミングライツ契約

GLOBAL NETWORK グローバルネットワーク

国内

本社

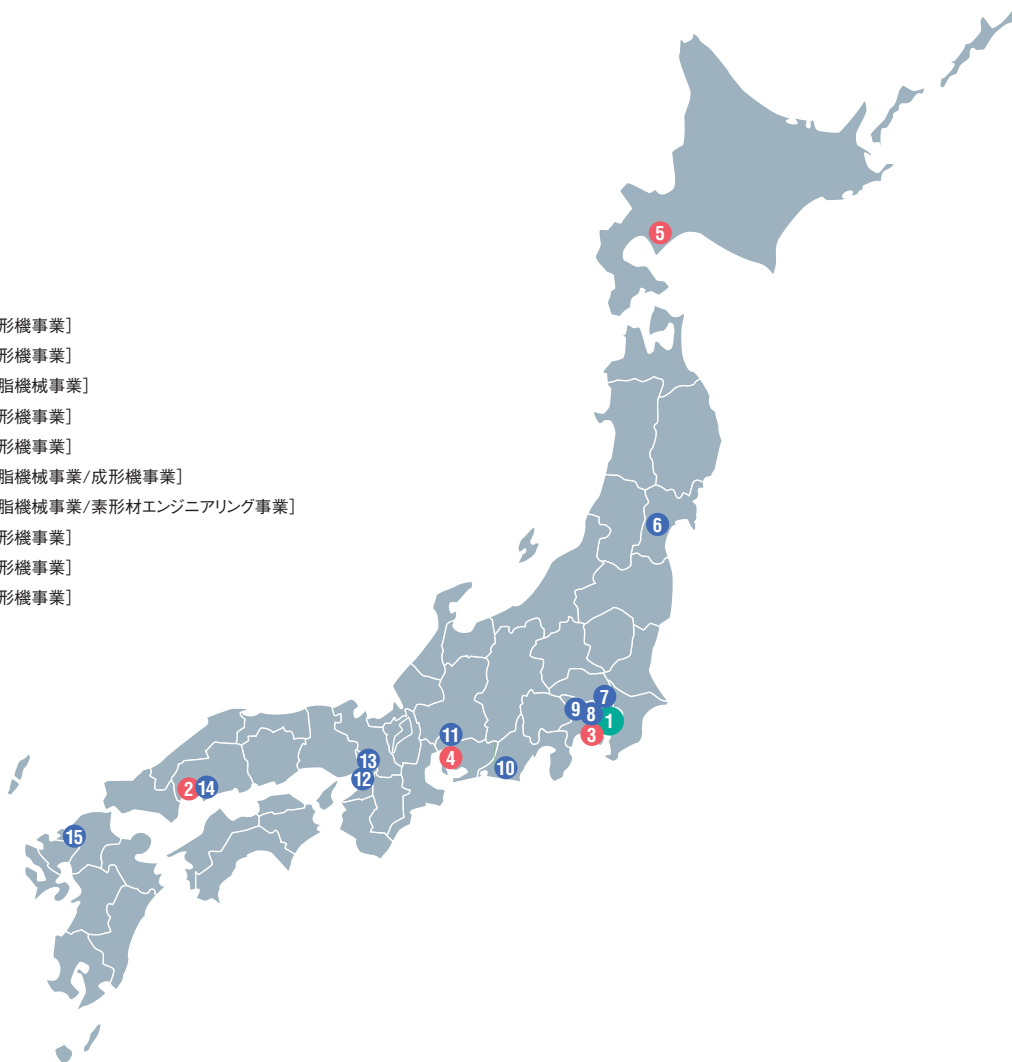
- 1 本社(東京都)

製造拠点

- 2 広島製作所(広島県)
- 3 横浜製作所(神奈川県)
- 4 名機製作所(愛知県)
- 5 室蘭製作所(北海道)

営業拠点

- 6 東北営業所(宮城県) [成形機事業]
- 7 関東営業所(埼玉県) [成形機事業]
- 8 東日本営業所(東京都) [樹脂機械事業]
- 9 府中出張所(東京都) [成形機事業]
- 10 浜松出張所(静岡県) [成形機事業]
- 11 中部営業所名古屋営業所(愛知県) [樹脂機械事業/成形機事業]
- 12 西日本営業所(大阪府) [樹脂機械事業/素形材エンジニアリング事業]
- 13 関西営業所(大阪府) [成形機事業]
- 14 中国営業所(広島県) [成形機事業]
- 15 九州営業所(福岡県) [成形機事業]



SYNERGY 主な関連会社

東京

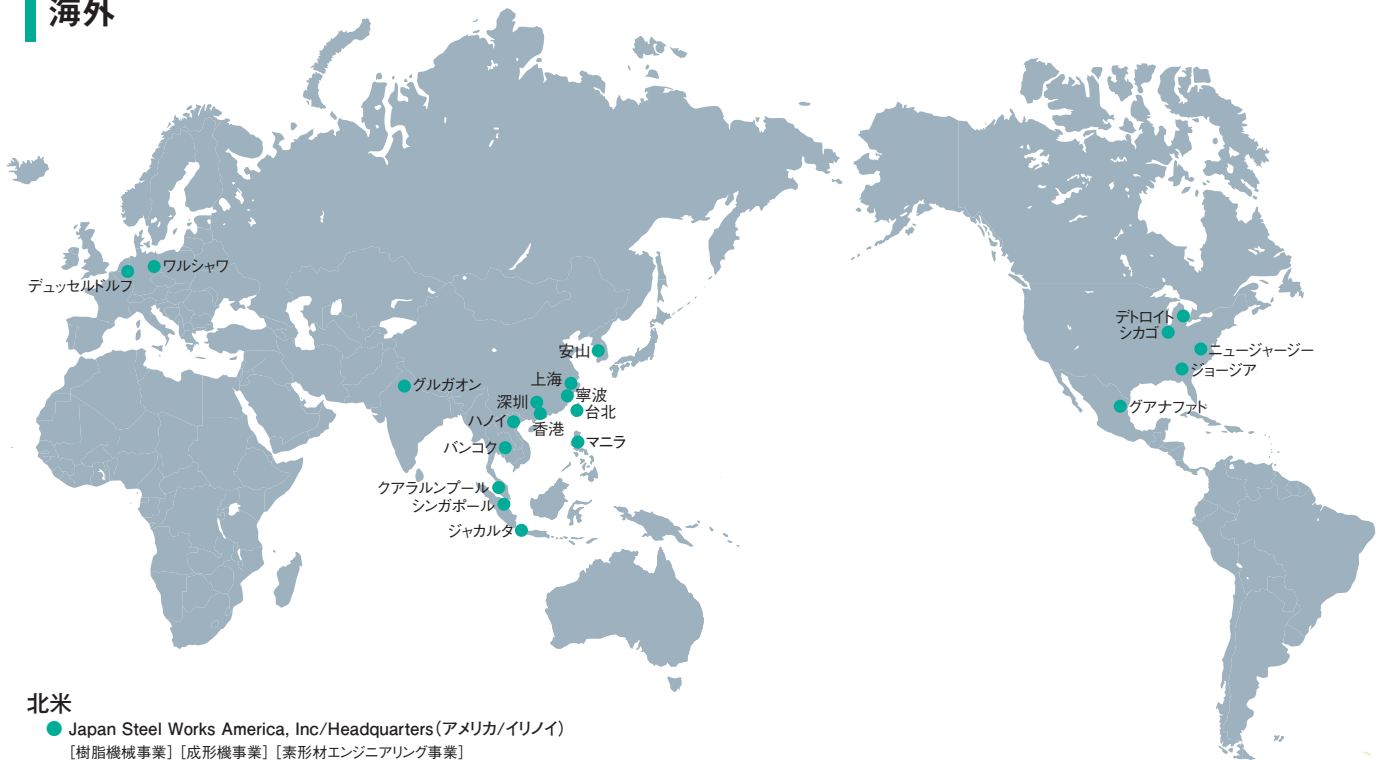
- 日鋼YPK商事株式会社
 - 鉄鋼製品、成形・樹脂機械、半導体製造装置等の販売
- ニッコー厚産株式会社
 - 業務請負、人材派遣業、旅行業
- 日鋼特機株式会社
 - 防衛関連機器等の整備、部品の販売

広島

- 日鋼設計株式会社
 - 機械製品の設計・製図等
- 日鋼テクノ株式会社
 - 鉄・非鉄金属素材・特殊合金素材の機械加工・熱処理加工・溶接・製缶・仕上・組立および加工品の製造・販売
- 株式会社ニップラ
 - 射出成形機を中心とした機械および器具の据付、修理およびメンテナンスサービス
- エムジープレジジョン株式会社
 - 射出成形機により生成する金属成形品の設計・製造・販売
- 株式会社サン・テクトロ
 - 射出成形機、樹脂機械等産業機械用電装品の設計・製造・販売
- 株式会社ジャスト
 - 各種産業機械・電気器具および部品等の販売・修理・サービス



海外



北米

- Japan Steel Works America, Inc./Headquarters (アメリカ/イリノイ)
[樹脂機械事業] [成形機事業] [素材材エンジニアリング事業]
- East Coast Technical Center (New Jersey Technical Center) (アメリカ/ニュージャージー)

ヨーロッパ

- Japan Steel Works Europe GmbH (ドイツ)
[樹脂機械事業] [素材材エンジニアリング事業]
- JSW Plastics Machinery Europe Sp. zo. o. (ポーランド)
[成形機事業]

東アジア

- SM Platek Co., LTD. (韓国)
[樹脂機械事業]
- JSW Machinery Trading (Shanghai) Co., Ltd. (中国/上海)
[樹脂機械事業] [成形機事業]
- JSW Electromechanical Trading (Shanghai) Co., Ltd. (中国/上海)
[産業機械事業]
- JSW Plastics Machinery (H.K.) Co., Ltd. (中国/香港)
[成形機事業]
- JSW Plastics Machinery (Shenzhen) Co., Ltd. (中国/深圳)
[成形機事業]
- JSW Machinery (Ningbo) Co., Ltd. (中国/寧波)
[成形機事業]
- JSW Plastics Machinery (Taiwan) Corp. (台湾)
[成形機事業] [産業機械事業]

東南アジア

- The Japan Steel Works (Singapore) Pte. Ltd. (シンガポール)
[樹脂機械事業] [成形機事業] [産業機械事業] [素材材エンジニアリング事業]
- The Japan Steel Works (Thailand) Co., Ltd. (タイ)
[樹脂機械事業] [成形機事業] [産業機械事業]
- PT. JSW Plastics Machinery Indonesia (インドネシア)
[成形機事業]
- JSW Plastics Machinery (Philippines) Inc. (フィリピン)
[成形機事業]
- JSW Plastics Machinery (M) SDN. BHD. (マレーシア)
[成形機事業]
- JSW Plastics Machinery Vietnam Ltd. (ベトナム)
[成形機事業]

南アジア

- Japan Steel Works India Private Limited (インド)
[樹脂機械事業] [成形機事業]
- Experience Centre (インド)

中南米

- JSW Plastics Machinery Mexico S. de R.L. de C.V. (メキシコ)
[成形機事業]

横浜

日鋼工機株式会社 ■
● 産業機械等の製作・設計・組立等

JSWアクティナシステム株式会社 ■
● 電子デバイス関連機器の製造・販売・メンテナンス事業

JSWアフティ株式会社 ■
● 半導体製造装置等の開発・製造・販売

株式会社ジーエムエンジニアリング ■
● プラスチック押出成形機の製造・販売

千葉

株式会社タハラ ■
● 中空成形機の製造・販売

室蘭

日鋼運輸株式会社 ■
● 一般港湾運送業、通運事業、一般貨物自動車運送事業

日鋼室蘭サービス株式会社 ■
● 各種業務請負他

室蘭環境プラントサービス株式会社
● ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理施設の運転・保守・点検

ファインクリスタル株式会社 ■
● 人工水晶等とそれら加工品の製造・販売

室蘭銅合金株式会社 ■
● 銅合金の溶解および鋳造

- 樹脂機械事業
- 成形機事業
- 産業機械事業
- 素材材エンジニアリング事業
- 防衛関係事業
- 新規事業

HISTORY 沿革

1907
(明治40年) 北海道炭礦汽船(株)と英国アームストロング・ウィットウォース社(Sir W.G. Armstrong, Whitworth & Co., Ltd.)、ビッカース社(Vickers Sons and Maxim, Ltd.)の3社共同出資により設立
資本金1,000万円。本社および工場を北海道室蘭におく



1915
(大正4年) 本社を東京に移す

1920
(大正9年) (株) 広島製作所(広島市外所在)を買収して広島製作所を設置



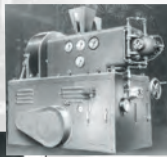
1935
(昭和10年) 横浜製作所を神奈川県金沢町に起工
昭和11年6月に竣工し操業開始



1938
(昭和13年) 東京製作所を東京都北多摩郡府中町に起工
昭和16年5月に竣工し操業開始

1950
(昭和25年) 商号を(株)旧日本製鋼所と変更のうえ解散し、新たに資本金2億円をもって(株)日本製鋼所を設立、旧会社から室蘭・広島・横浜・東京の4製作所および本店その他の営業所を継承して新発足

プラスチック加工機械分野へ進出
押出機第1号を製造



1961
(昭和36年) 射出成形機の技術提携、
国産第1号機を製造



1963
(昭和38年) 西ドイツより中空成形機の技術導入

1969
(昭和44年) ニューヨーク、デュッセルドルフ、テヘランに事務所設置

1975
(昭和50年) ロサンゼルス、ヒューストン、シンガポールに事務所設置

1978
(昭和53年) 米国現地法人 Japan Steel Works America, Inc.を設立

1979
(昭和54年) コンパウンド用二軸押出機TEXを上市



1983
(昭和58年) 横浜製作所を移転して操業開始
北京事務所設置
デミング賞実施賞を受ける

1987
(昭和62年) 情報システム事業へ進出
電動射出成形機を上市

1988
(昭和63年) 人工水晶・応用製品の製造、販売を行う
株式会社ファインクリスタルを設立



1990
(平成2年) 米国現地法人 JSW Plastics Machinery, Inc. を設立

1991
(平成3年) 広島製作所内に技術開発センター完成

1994
(平成6年) ISO 9001・9002の認証を取得

1995
(平成7年) マグネシウム射出成形機の
1号機を上市



1995
(平成7年) エキシマレーザーアニール装置
1台目を上市



1997
(平成9年)

香港現地法人 JSW Plastics Machinery (H.K.) Co., Ltd.を設立

1998
(平成10年)

ISO 14001の認証を取得

2000
(平成12年)

台湾現地法人 JSW Plastics Machinery (Taiwan) Corp.を設立

2002
(平成14年)

当社製MH貯蔵システム/高圧水素圧縮機使用の水素ステーション竣工

2003
(平成15年)

中国現地法人 JSW Plastics Machinery (C) Corp.を設立

2005
(平成17年)

上海事務所設置

2007
(平成19年)

創立100周年を迎える
本社を東京大崎に移転



2009
(平成21年)

インド現地法人 Japan Steel Works (INDIA) Private Limitedを設立



2010
(平成22年)

中国現地法人 寧波日鋼機械製造有限公司を設立

技能伝承の取り組みのため
室蘭「はがね塾」、
広島「技能道場」を開設



2011
(平成23年)

射出成形機事業50周年を迎える



2012
(平成24年)

デュッセルドルフ事務所を現地法人化
Japan Steel Works Europe GmbHを設立

2013
(平成25年)

原子炉圧力容器、発電機用超大型一体化鋳鋼品が評価され、
グローバルニッチトップ企業100選に選ばれる



2014
(平成26年)

シンガポール現地法人
The Japan Steel Works (Singapore) Pte. Ltd.設立
JSWアフティ(株)を設立

水素ステーション用蓄圧器を開発



2015
(平成27年)

韓国SM PLATEK社を子会社化

2016
(平成28年)

(株)名機製作所を完全子会社化
横浜製作所80周年

2020
(令和2年)

(株)名機製作所を吸収合併



素材形・エンジニアリング事業部門を分社化し、
日本製鋼所M&E(株)を設立

広島製作所100周年

2021
(令和3年)

フラットパネルディスプレイ部門を分社化し、
JSWアクティナシステム(株)を設立

2025
(令和7年)

ISO19443の認証を取得

2026
(令和8年)

日本製鋼所M&E(株)を吸収合併

To be continued

JSW



www.jsw.co.jp